

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 2023年2月13日

【四半期会計期間】 第94期第3四半期(自 2022年10月1日 至 2022年12月31日)

【会社名】 株式会社佐賀銀行

【英訳名】 THE BANK OF SAGA LTD.

【代表者の役職氏名】 取締役頭取 坂井 秀明

【本店の所在の場所】 佐賀県佐賀市唐人二丁目7番20号

【電話番号】 0952(24)5111(代表)

【事務連絡者氏名】 執行役員総合企画部長 中島 秀樹

【最寄りの連絡場所】 東京都中央区銀座一丁目10番6号  
株式会社佐賀銀行 東京事務所

【電話番号】 03(5250)8704(代表)

【事務連絡者氏名】 東京支店長兼東京事務所長 荒津 賢

【縦覧に供する場所】 株式会社佐賀銀行 福岡支店  
(福岡市中央区天神二丁目8番41号)  
株式会社佐賀銀行 東京支店  
(東京都中央区銀座一丁目10番6号)  
株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)  
証券会員制法人福岡証券取引所  
(福岡市中央区天神二丁目14番2号)

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

		2021年度 第3四半期 連結累計期間	2022年度 第3四半期 連結累計期間	2021年度
		(自2021年4月1日 至2021年12月31日)	(自2022年4月1日 至2022年12月31日)	(自2021年4月1日 至2022年3月31日)
経常収益	百万円	33,045	35,940	43,861
うち信託報酬	百万円			
経常利益	百万円	5,830	7,661	6,975
親会社株主に帰属する 四半期純利益	百万円	3,700	6,133	
親会社株主に帰属する 当期純利益	百万円			4,076
四半期包括利益	百万円	1,440	9,852	
包括利益	百万円			9,479
純資産額	百万円	123,825	104,800	115,786
総資産額	百万円	3,137,755	3,112,679	3,164,026
1株当たり四半期純利益	円	220.55	365.33	
1株当たり当期純利益	円			242.97
潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益	円	218.75	361.99	
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益	円			240.93
自己資本比率	%	3.93	3.35	3.65
信託財産額	百万円			

		2021年度 第3四半期 連結会計期間	2022年度 第3四半期 連結会計期間
		(自2021年10月1日 至2021年12月31日)	(自2022年10月1日 至2022年12月31日)
1株当たり四半期純利益	円	97.49	84.57

- (注) 1. 自己資本比率は、((四半期)期末純資産の部合計 - (四半期)期末新株予約権)を(四半期)期末資産の部の合計で除して算出しております。
2. 信託財産額は、「金融機関の信託業務の兼営等に関する法律」に基づく信託業務に係る信託財産額を記載しております。なお、連結会社のうち、該当する信託業務を営む会社は提出会社1社です。

#### 2 【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当行及び当行の関係会社が営む事業の内容については、重要な変更はありません。また、主要な関係会社についても異動はありません。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在していません。

### 2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

以下の記載における将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

#### (1) 財政状態及び経営成績の状況

当第3四半期連結累計期間の経営成績につきまして、経常収益は、貸出金利息や有価証券利息配当金の増加を主因として資金運用収益が増加したことや、役務取引等収益が増加したこと、また、有価証券のポートフォリオ入れ替えに伴う株式等売却益の増加によりその他経常収益が増加したこと等から、前年同期比28億95百万円増加し359億40百万円となりました。

経常費用は、営業経費や、貸倒引当金繰入額の減少を主因としたその他経常費用の減少等があったものの、資金調達費用が増加したことや、上記ポートフォリオ入れ替えによる国債等債券売却損の増加によりその他業務費用が増加したこと等から、前年同期比10億65百万円増加し282億79百万円となりました。

この結果、経常利益は、前年同期比18億31百万円増加し76億61百万円となりました。

また、親会社株主に帰属する四半期純利益は、前年同期比24億33百万円増加し61億33百万円となりました。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

#### 銀行業

経常収益は前年同期比28億55百万円増加し302億18百万円となり、セグメント利益は前年同期比20億15百万円増加し77億42百万円となりました。

#### リース業

経常収益は前年同期比80百万円減少し58億8百万円となり、セグメント利益は前年同期比15百万円減少し1億87百万円となりました。

#### 信用保証業

経常収益は前年同期比6百万円増加し4億67百万円となり、セグメント利益は前年同期比1億12百万円減少し2億31百万円となりました。

#### その他

銀行業、リース業、信用保証業を除くその他の経常収益は前年同期比1億8百万円増加し7億33百万円となり、セグメント利益は前年同期比56百万円減少し16百万円となりました。

当第3四半期連結会計期間末の財政状態につきましては、預金残高が、前連結会計年度末比114億円減少し2兆7,761億円、貸出金残高が721億円増加し2兆2,182億円、有価証券残高は550億円増加し7,180億円となりました。

総資産は貸出金や有価証券が増加しましたが、現金預け金が減少したこと等により、前連結会計年度末比513億円減少し3兆1,126億円となりました。純資産につきましては、その他有価証券評価差額金の減少等により、前連結会計年度末比109億円減少し1,048億円となりました。

国内・国際業務部門別収支

当第3四半期連結累計期間の資金運用収支は186億60百万円、役務取引等収支は37億75百万円、その他業務収支は17億29百万円となりました。

種類	期別	国内業務部門	国際業務部門	相殺消去額( )	合計
		金額(百万円)	金額(百万円)	金額(百万円)	金額(百万円)
資金運用収支	前第3四半期連結累計期間	17,252	908		18,161
	当第3四半期連結累計期間	17,863	797		18,660
うち資金運用収益	前第3四半期連結累計期間	17,386	1,041	7	18,419
	当第3四半期連結累計期間	17,929	2,346	2	20,273
うち資金調達費用	前第3四半期連結累計期間	134	132	7	258
	当第3四半期連結累計期間	66	1,549	2	1,612
信託報酬	前第3四半期連結累計期間				
	当第3四半期連結累計期間				
役務取引等収支	前第3四半期連結累計期間	3,503	26		3,530
	当第3四半期連結累計期間	3,750	24		3,775
うち役務取引等収益	前第3四半期連結累計期間	5,878	51		5,929
	当第3四半期連結累計期間	6,121	50		6,172
うち役務取引等費用	前第3四半期連結累計期間	2,374	24		2,399
	当第3四半期連結累計期間	2,371	25		2,396
その他業務収支	前第3四半期連結累計期間	344	37		382
	当第3四半期連結累計期間	327	1,401		1,729
うちその他業務収益	前第3四半期連結累計期間	6,233	356		6,589
	当第3四半期連結累計期間	6,051	542		6,593
うちその他業務費用	前第3四半期連結累計期間	5,888	318		6,207
	当第3四半期連結累計期間	6,379	1,944		8,323

- (注) 1. 「国内業務部門」は、当行の円建取引並びに連結子会社の取引、「国際業務部門」は、当行の外貨建取引であります。ただし、円建対非居住者取引は、国際業務部門に含めております。
2. 資金調達費用は、金銭の信託運用見合費用(前第3四半期連結累計期間0百万円、当第3四半期連結累計期間0百万円)を控除して表示しております。
3. 相殺消去額は、国内業務部門と国際業務部門との間における、資金貸借の利息であります。

国内・国際業務部門別役務取引の状況

当第3四半期連結累計期間の役務取引等収益は、国内業務部門で61億21百万円、国際業務部門で50百万円、合計で61億72百万円となりました。その主なものは為替業務の15億25百万円であります。

役務取引等費用は23億96百万円となりました。

種類	期別	国内業務部門	国際業務部門	相殺消去額( )	合計
		金額(百万円)	金額(百万円)	金額(百万円)	金額(百万円)
役務取引等収益	前第3四半期連結累計期間	5,878	51		5,929
	当第3四半期連結累計期間	6,121	50		6,172
うち預金・貸出業務	前第3四半期連結累計期間	1,133			1,133
	当第3四半期連結累計期間	1,237			1,237
うち為替業務	前第3四半期連結累計期間	1,613	48		1,661
	当第3四半期連結累計期間	1,478	46		1,525
うち証券関連業務	前第3四半期連結累計期間	113			113
	当第3四半期連結累計期間	125			125
うち代理業務	前第3四半期連結累計期間	219			219
	当第3四半期連結累計期間	281			281
うち保護預り貸金庫業務	前第3四半期連結累計期間	69			69
	当第3四半期連結累計期間	66			66
うち保証業務	前第3四半期連結累計期間	281	3		284
	当第3四半期連結累計期間	317	3		321
役務取引等費用	前第3四半期連結累計期間	2,374	24		2,399
	当第3四半期連結累計期間	2,371	25		2,396
うち為替業務	前第3四半期連結累計期間	419	20		439
	当第3四半期連結累計期間	332	18		351

(注) 1. 「国内業務部門」は、当行の円建取引並びに連結子会社の取引、「国際業務部門」は、当行の外貨建取引であります。ただし、円建対非居住者取引は、国際業務部門に含めております。  
2. 相殺消去額は、国内業務部門と国際業務部門との間における、部門間取引の額であります。

国内・国際業務部門別預金残高の状況  
預金の種類別残高(末残)

種類	期別	国内業務部門	国際業務部門	相殺消去額( )	合計
		金額(百万円)	金額(百万円)	金額(百万円)	金額(百万円)
預金合計	前第3四半期連結会計期間	2,695,393	25,363		2,720,757
	当第3四半期連結会計期間	2,753,642	22,487		2,776,130
うち流動性預金	前第3四半期連結会計期間	1,929,189			1,929,189
	当第3四半期連結会計期間	2,001,757			2,001,757
うち定期性預金	前第3四半期連結会計期間	756,920			756,920
	当第3四半期連結会計期間	743,600			743,600
うちその他	前第3四半期連結会計期間	9,283	25,363		34,647
	当第3四半期連結会計期間	8,284	22,487		30,772
譲渡性預金	前第3四半期連結会計期間	60,406			60,406
	当第3四半期連結会計期間	55,944			55,944
総合計	前第3四半期連結会計期間	2,755,799	25,363		2,781,163
	当第3四半期連結会計期間	2,809,586	22,487		2,832,074

- (注) 1. 「国内業務部門」は、当行の円建取引、「国際業務部門」は、当行の外貨建取引であります。ただし、円建対非居住者取引は、国際業務部門に含めております。
2. 流動性預金 = 当座預金 + 普通預金 + 貯蓄預金 + 通知預金
3. 定期性預金 = 定期預金
4. 相殺消去額は、国内業務部門と国際業務部門との間における、部門間取引の額であります。

国内・国際業務部門別貸出金残高の状況  
業種別貸出状況(末残・構成比)

業種別	前第3四半期連結会計期間		当第3四半期連結会計期間	
	金額(百万円)	構成比(%)	金額(百万円)	構成比(%)
国内(除く特別国際金融取引勘定分)	1,998,940	100.00	2,218,255	100.00
製造業	119,620	5.99	122,909	5.54
農業、林業	3,212	0.16	3,587	0.16
漁業	3,324	0.17	2,915	0.13
鉱業、採石業、砂利採取業	5,041	0.25	4,236	0.19
建設業	86,310	4.32	90,540	4.08
電気・ガス・熱供給・水道業	38,615	1.93	39,709	1.79
情報通信業	10,819	0.54	11,085	0.50
運輸業、郵便業	76,400	3.82	76,301	3.44
卸売業、小売業	200,115	10.01	199,921	9.01
金融業、保険業	100,640	5.03	121,983	5.50
不動産業、物品賃貸業	291,560	14.59	311,006	14.02
各種サービス業	241,487	12.08	232,923	10.50
地方公共団体	188,889	9.45	249,656	11.26
その他	632,903	31.66	751,478	33.88
特別国際金融取引勘定分				
政府等 金融機関 その他				
合計	1,998,940		2,218,255	

(注) 「国内」とは、当行及び連結子会社であります。

「金融機関の信託業務の兼営等に関する法律」に基づく信託業務の状況

連結会社のうち、「金融機関の信託業務の兼営等に関する法律」に基づき信託業務を営む会社は提出会社1社です。

なお、前連結会計年度末及び当第3四半期連結会計期間末においては、信託財産額はありません。

(2) 会計上の見積り及び当該見積りに用いた仮定

前連結会計年度の有価証券報告書に記載した「経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析」中の会計上の見積り及び当該見積りに用いた仮定の記載について重要な変更はありません。

(3) 経営方針・経営戦略等

当第3四半期連結累計期間において、経営方針・経営戦略等、及び経営上の目標の達成状況を判断するための客観的な指標等に関して、重要な変更及び新たに生じた事項はありません。

(4) 優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題

当第3四半期連結累計期間において、優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(5) 研究開発活動

該当事項はありません。

### 3 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 第3 【提出会社の状況】

#### 1 【株式等の状況】

##### (1) 【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	49,914,200
計	49,914,200

###### 【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間 末現在発行数(株) (2022年12月31日)	提出日現在 発行数(株) (2023年2月13日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	17,135,909	17,135,909	東京証券取引所 プライム市場 福岡証券取引所	完全議決権株式であり、 権利内容に何ら限定のな い当行における標準とな る株式で、単元株式数は 100株であります。
計	17,135,909	17,135,909		

##### (2) 【新株予約権等の状況】

###### 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

###### 【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
2022年12月31日		17,135		16,062		11,374

(注) 当第3四半期会計期間における異動はありません。

##### (5) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(6) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日(2022年9月30日)に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

2022年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 339,700		権利内容に何ら限定のない当行における標準となる株式で、単元株式数は、100株であります。
完全議決権株式(その他)	普通株式 16,707,800	167,078	同上
単元未満株式	普通株式 88,409		1単元(100株)未満の株式
発行済株式総数	17,135,909		
総株主の議決権		167,078	

(注) 上記の「単元未満株式」の欄には、当行所有の自己株式39株が含まれております。

【自己株式等】

2022年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社佐賀銀行	佐賀市唐人二丁目7番20号	339,700		339,700	1.98
計		339,700		339,700	1.98

2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期累計期間における役員の異動はありません。

## 第4 【経理の状況】

1. 当行の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(2007年内閣府令第64号)に基づいて作成しておりますが、資産及び負債の分類並びに収益及び費用の分類は、「銀行法施行規則」(1982年大蔵省令第10号)に準拠しております。
2. 当行は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間(自2022年10月1日 至2022年12月31日)及び第3四半期連結累計期間(自2022年4月1日 至2022年12月31日)に係る四半期連結財務諸表について、EY新日本有限責任監査法人の四半期レビューを受けております。

## 1 【四半期連結財務諸表】

## (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
<b>資産の部</b>		
現金預け金	301,833	110,463
買入金銭債権	2,164	2,424
金銭の信託	862	866
有価証券	1 662,989	1 718,063
貸出金	1 2,146,060	1 2,218,255
外国為替	1 3,534	1 2,489
リース債権及びリース投資資産	15,120	14,686
その他資産	1 11,619	1 15,185
有形固定資産	23,165	23,256
無形固定資産	1,021	936
退職給付に係る資産	194	1,537
繰延税金資産	3,490	10,250
支払承諾見返	1 9,233	1 11,338
貸倒引当金	17,231	17,043
投資損失引当金	31	31
<b>資産の部合計</b>	<b>3,164,026</b>	<b>3,112,679</b>
<b>負債の部</b>		
預金	2,787,624	2,776,130
譲渡性預金	8,711	55,944
コールマネー及び売渡手形	5,874	
債券貸借取引受入担保金	48,363	79,423
借入金	154,154	66,407
外国為替	148	216
その他負債	28,849	14,236
賞与引当金	614	
退職給付に係る負債	1,215	793
役員退職慰労引当金	19	9
睡眠預金払戻損失引当金	220	220
繰延税金負債	154	141
再評価に係る繰延税金負債	3,054	3,016
支払承諾	9,233	11,338
<b>負債の部合計</b>	<b>3,048,240</b>	<b>3,007,879</b>
<b>純資産の部</b>		
資本金	16,062	16,062
資本剰余金	13,327	13,327
利益剰余金	76,541	81,448
自己株式	978	919
<b>株主資本合計</b>	<b>104,951</b>	<b>109,918</b>
その他有価証券評価差額金	4,264	11,624
土地再評価差額金	6,267	6,292
退職給付に係る調整累計額	51	45
<b>その他の包括利益累計額合計</b>	<b>10,583</b>	<b>5,377</b>
新株予約権	250	259
<b>純資産の部合計</b>	<b>115,786</b>	<b>104,800</b>
<b>負債及び純資産の部合計</b>	<b>3,164,026</b>	<b>3,112,679</b>

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2021年4月1日 至2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2022年4月1日 至2022年12月31日)
経常収益	33,045	35,940
資金運用収益	18,419	20,273
(うち貸出金利息)	14,021	14,375
(うち有価証券利息配当金)	4,020	5,508
役務取引等収益	5,929	6,172
その他業務収益	6,589	6,593
その他経常収益	<sup>1</sup> 2,106	<sup>1</sup> 2,901
経常費用	27,214	28,279
資金調達費用	258	1,612
(うち預金利息)	183	430
役務取引等費用	2,399	2,396
その他業務費用	6,207	8,323
営業経費	15,454	14,942
その他経常費用	<sup>2</sup> 2,894	<sup>2</sup> 1,003
経常利益	5,830	7,661
特別利益	30	587
固定資産処分益	30	147
退職給付制度改定益		440
特別損失	271	225
固定資産処分損	43	123
減損損失	228	102
税金等調整前四半期純利益	5,589	8,022
法人税、住民税及び事業税	1,956	1,682
法人税等調整額	67	207
法人税等合計	1,888	1,889
四半期純利益	3,700	6,133
親会社株主に帰属する四半期純利益	3,700	6,133

【四半期連結包括利益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)
四半期純利益	3,700	6,133
その他の包括利益	5,141	15,985
その他有価証券評価差額金	5,027	15,889
退職給付に係る調整額	113	96
四半期包括利益	1,440	9,852
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,440	9,852

【注記事項】

(会計方針の変更)

(時価の算定に関する会計基準の適用指針の適用)

「時価の算定に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第31号 2021年6月17日。以下「時価算定会計基準適用指針」という。)を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準適用指針第27 - 2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準適用指針が定める新たな会計方針を将来にわたって適用することといたしました。なお、四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(追加情報)

(新型コロナウイルス感染症の影響に関する会計上の見積り)

新型コロナウイルス感染症の影響に関する会計上の見積りの仮定につきましては、前連結会計年度の有価証券報告書の(追加情報)に記載した内容から重要な変更はありません。

(退職給付制度の一部について確定拠出年金制度への移行)

当行は、2022年4月1日に確定給付企業年金制度の一部について確定拠出年金制度へ移行したことにより、「退職給付制度間の移行等に関する会計処理」(企業会計基準適用指針第1号 2016年12月16日)及び「退職給付制度間の移行等の会計処理に関する実務上の取扱い」(実務対応報告第2号 2007年2月7日)を適用し、確定拠出年金制度への移行部分について退職給付制度の一部終了の処理を行いました。

これにより、当第3四半期連結累計期間において、退職給付制度改定益440百万円を特別利益に計上しております。

(四半期連結貸借対照表関係)

1. 銀行法及び金融機能の再生のための緊急措置に関する法律に基づく債権は次のとおりであります。なお、債権は、連結貸借対照表の「有価証券」中の社債(その元本の償還及び利息の支払の全部又は一部について保証しているものであって、当該社債の発行が有価証券の私募(金融商品取引法第2条第3項)によるものに限る。)、貸出金、外国為替、「その他資産」中の未収利息及び仮払金並びに支払承諾見返の各勘定に計上されるもの並びに注記されている有価証券の貸付けを行っている場合のその有価証券(使用貸借又は貸借契約によるものに限る。)であります。

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
破産更生債権及びこれらに準ずる債権額	10,567百万円	10,369百万円
危険債権額	23,281百万円	23,493百万円
三月以上延滞債権額	百万円	百万円
貸出条件緩和債権額	11,159百万円	10,664百万円
合計額	45,008百万円	44,527百万円

なお、上記債権額は、貸倒引当金控除前の金額であります。

(四半期連結損益計算書関係)

1. その他経常収益には、次のものを含んでおります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)
株式等売却益	1,551百万円	2,314百万円

2. その他経常費用には、次のものを含んでおります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)
貸倒引当金繰入額	2,432百万円	248百万円
株式等売却損	215百万円	473百万円
時効完成預金支払	58百万円	76百万円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)
減価償却費	737百万円	597百万円

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自2021年4月1日 至2021年12月31日)

1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2021年6月29日 定時株主総会	普通株式	587	35.00	2021年3月31日	2021年6月30日	利益剰余金
2021年11月11日 取締役会	普通株式	587	35.00	2021年9月30日	2021年12月3日	利益剰余金

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自2022年4月1日 至2022年12月31日)

1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2022年6月29日 定時株主総会	普通株式	587	35.00	2022年3月31日	2022年6月30日	利益剰余金
2022年11月10日 取締役会	普通株式	587	35.00	2022年9月30日	2022年12月2日	利益剰余金

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日  
後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自2021年4月1日 至2021年12月31日)

1. 報告セグメントごとの経常収益及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				その他	合計	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額
	銀行業	リース業	信用保証業	計				
経常収益								
外部顧客に対する 経常収益	26,803	5,818	208	32,830	214	33,045		33,045
セグメント間の 内部経常収益	559	69	253	882	410	1,293	1,293	
計	27,363	5,888	461	33,712	625	34,338	1,293	33,045
セグメント利益	5,727	202	343	6,273	72	6,345	514	5,830

- (注) 1. 一般企業の売上高に代えて、それぞれ経常収益を記載しております。  
2. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれていない事業セグメントであり、情報処理業務、事務代行業務等であります。  
3. セグメント利益の調整額 514百万円は、セグメント間取引消去であります。  
4. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

銀行業セグメントにおいて、使用方法の変更等により投資額の回収が見込めなくなった固定資産について、帳簿価額を回収可能額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上しております。

なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間においては、228百万円であります。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自2022年4月1日 至2022年12月31日)

1. 報告セグメントごとの経常収益及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他	合計	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額
	銀行業	リース業	信用保証業	計				
経常収益								
外部顧客に対する 経常収益	29,656	5,733	239	35,629	329	35,959	18	35,940
セグメント間の 内部経常収益	562	75	227	865	403	1,269	1,269	
計	30,218	5,808	467	36,495	733	37,228	1,287	35,940
セグメント利益	7,742	187	231	8,161	16	8,177	516	7,661

- (注) 1. 一般企業の売上高に代えて、それぞれ経常収益を記載しております。  
2. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれていない事業セグメントであり、情報処理業務、事務代行業務等であります。  
3. 外部顧客に対する経常収益の調整額 18百万円は、貸倒引当金戻入益の調整であります。  
4. セグメント利益の調整額 516百万円は、セグメント間取引消去であります。  
5. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

銀行業セグメントにおいて、使用方法の変更等により投資額の回収が見込めなくなった固定資産について、帳簿価額を回収可能額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上しております。

なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間においては、102百万円であります。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

(有価証券関係)

1. 満期保有目的の債券

前連結会計年度(2022年3月31日)

	連結貸借対照表 計上額(百万円)	時価(百万円)	差額(百万円)
国債			
地方債			
短期社債			
社債	3,590	3,589	0
その他	10,000	10,468	468
合計	13,590	14,058	468

当第3四半期連結会計期間(2022年12月31日)

	四半期連結貸借対照表 計上額(百万円)	時価(百万円)	差額(百万円)
国債			
地方債			
短期社債			
社債	2,836	2,832	3
その他	10,000	10,226	226
合計	12,836	13,058	222

2. その他有価証券

前連結会計年度(2022年3月31日)

	取得原価(百万円)	連結貸借対照表 計上額(百万円)	差額(百万円)
株式	15,189	22,983	7,793
債券	443,408	443,432	23
国債	15,313	15,067	246
地方債	261,758	261,681	76
短期社債	9,999	9,999	
社債	156,336	156,682	346
その他	182,499	180,748	1,751
合計	641,098	647,163	6,065

当第3四半期連結会計期間(2022年12月31日)

	取得原価(百万円)	四半期連結貸借対照表 計上額(百万円)	差額(百万円)
株式	15,403	24,903	9,499
債券	476,206	464,743	11,463
国債	30,497	29,433	1,064
地方債	275,562	267,795	7,766
短期社債	5,999	5,999	
社債	164,147	161,514	2,633
その他	226,856	212,018	14,837
合計	718,466	701,664	16,801

(注) その他有価証券のうち、当該有価証券の時価が取得原価に比べて著しく下落しており、時価が取得原価まで回復する見込みがあると認められないものについては、当該時価をもって四半期連結貸借対照表計上額(連結貸借対照表計上額)とするとともに、評価差額を当第3四半期連結累計期間(連結会計年度)の損失として処理(以下、「減損処理」という。)しております。

前連結会計年度における減損処理額は、40百万円(全て株式)であります。

当第3四半期連結累計期間における減損処理額は、該当ありません。

また、時価が「著しく下落した」と判断するための基準は以下のとおりであります。

- (1)四半期連結会計期間末日(連結会計年度末日)の時価が取得原価の50%以上下落した銘柄
- (2)四半期連結会計期間末日(連結会計年度末日)の時価が取得原価の30%以上50%未満下落し、かつ下記ア、イ、ウのいずれかに該当する銘柄
  - ア 時価が過去2年間にわたり、常に簿価の70%以下である場合
  - イ 株式の発行会社が債務超過の状態にある場合
  - ウ 株式の発行会社が2期連続で損失を計上し、翌期も損失を計上すると予想される場合

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報

前第3四半期連結累計期間(自2021年4月1日 至2021年12月31日)

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他	調整額	合計
	銀行業	リース業	信用保証業	計			
役務取引等収益等							
預金・貸出業務	1,133			1,133			1,133
為替業務	1,661			1,661			1,661
その他	394			394	9		403
顧客との契約から生じる経常収益	3,189			3,189	9		3,198
上記以外の経常収益	23,614	5,818	208	29,640	205		29,846
外部顧客に対する経常収益	26,803	5,818	208	32,830	214		33,045

(注)1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、情報処理業務、事務代行業務等を含んでおります。

2. 「リース業」の「上記以外の経常収益」は、リース取引に関する会計基準に基づくものであります。

当第3四半期連結累計期間(自2022年4月1日 至2022年12月31日)

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他	調整額	合計
	銀行業	リース業	信用保証業	計			
役務取引等収益等							
預金・貸出業務	1,237			1,237			1,237
為替業務	1,525			1,525			1,525
その他	3,042			3,042	37		3,079
顧客との契約から生じる経常収益	5,804			5,804	37		5,842
上記以外の経常収益	23,851	5,733	239	29,824	292	18	30,098
外部顧客に対する経常収益	29,656	5,733	239	35,629	329	18	35,940

(注)1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、情報処理業務、事務代行業務等を含んでおります。

2. 「リース業」の「上記以外の経常収益」は、リース取引に関する会計基準に基づくものであります。

3. 上記以外の経常収益の調整額 18百万円は、貸倒引当金戻入益の調整であります。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎並びに潜在株式調整後1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、次のとおりであります。

		前第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)
(1) 1株当たり四半期純利益	円	220.55	365.33
(算定上の基礎)			
親会社株主に帰属する 四半期純利益	百万円	3,700	6,133
普通株主に帰属しない金額	百万円		
普通株式に係る親会社株主に 帰属する四半期純利益	百万円	3,700	6,133
普通株式の期中平均株式数	千株	16,777	16,788
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期 純利益	円	218.75	361.99
(算定上の基礎)			
親会社株主に帰属する四半期 純利益調整額	百万円		
普通株式増加数	千株	138	154
(うち新株予約権)	千株	138	154
希薄化効果を有しないため、潜在 株式調整後1株当たり四半期純利 益の算定に含めなかった潜在株式 で、前連結会計年度末から重要な 変動があったものの概要			

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

中間配当

2022年11月10日開催の取締役会において、第94期の中間配当につき次のとおり決議しました。

中間配当金額	587百万円
1株当たりの中間配当金	35円00銭

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

# 独立監査人の四半期レビュー報告書

2023年2月13日

株式会社佐賀銀行  
取締役会 御中

## EY新日本有限責任監査法人

東京事務所

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 金子 一 昭

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 川口 輝 朗

### 監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社佐賀銀行の2022年4月1日から2023年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間(2022年10月1日から2022年12月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(2022年4月1日から2022年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社佐賀銀行及び連結子会社の2022年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

### 監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 四半期連結財務諸表に対する経営者及び監査等委員会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査等委員会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

#### 四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。
- ・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・ 四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の四半期レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査等委員会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査等委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

#### 利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- 
- 1 上記の四半期レビュー報告書の原本は当行(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
  - 2 XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。